

令和6年度
公営企業会計予算（案）について

公営企業会計予算(案)の概要

【令和6年度予算案策定にあたり】

令和6年度公営企業会計予算は、将来にわたり健全で安定した経営を持続するための中長期的な経営方針となる「水道及び下水道の各ビジョン・経営戦略」の財政収支計画を基本とし、計画的な事業の推進や現金残高と企業債残高のバランス、施設整備における重要度、優先度を考慮した予算を編成いたしました。

1. 水道事業会計の概要

収益的収入は、料金収入を令和5年度決算見込み額と同額となる、前年度比664万円増の14億9,828万円とし、計16億6,980万円を見込みました。

収益的支出では、恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略改定業務等の増額により、前年度比3,035万円増の15億5,818万円と見込み、純利益については前年度比2,894万円減となる6,658万円を見込みました。

資本的収入では、耐震化事業を確実に実施するため、企業債の借入額を前年度比7,880万円減の1億4,520万円とし、計1億5,469万円を見込みました。

資本的支出では、企業債償還金において償還終了が重なることで大きく減少したことにより、耐震化を含む全体事業費を前年度比3,166万円減の6億5,860万円と見込み、全体の予算規模は、前年度比131万円減の22億1,678万円となりました。

〔主な水道事業〕

管路整備

事業費 336,691千円(前年度比▲ 16,594千円)

●老朽化・耐震化

恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略に基づき、地震に弱いとされる塩化ビニル管(TS継手)について耐震性を有する管への更新を優先的に行います。

□布設替工事(老朽管耐震化工事、道路改良・下水道整備に伴う工事など)

《4条予算》 L=3,922m、289,770千円(前年度比▲10,125千円)

(耐震化工事分 241,318千円、道路改良等 48,453千円)

うちTS管:3,470m(R6末残延長 17,902m)

□布設工事

《4条予算》 L=309m、15,483千円(前年度比+1,042千円)

□配水管実施設計委託業務

《4条予算》 7,997千円(前年度比+1,837千円)

□南18ルルマップ川橋架替えに伴う配水管実施設計委託業務

《4条予算》 9,493千円(皆増)

●災害対策

□緊急貯水槽整備事業

《4条予算》 緊急貯水槽整備 13,948千円(前年度比+3,025千円)

(植生整備工事分 7,986千円、附帯工事分 5,962千円)

□水道事業会計の概要

*経費区分欄の(歳入)(歳出)には主な経費のみ記載

(単位:千円)

経費区分	予算額		増減額	備考
	令和6年度	令和5年度		
予算規模	2,216,780	2,218,090	▲ 1,310	
○収益的収支				
(歳入)	1,669,801	1,666,353	3,448	
水道料金	1,498,280	1,491,644	6,636	○水道料金(家事用)の増:前年比+171千円 ○水道料金(家事用外)の増:前年比+6,465千円
その他	171,521	174,709	▲ 3,188	○設計審査手数料の減:前年比▲2,328千円
(歳出)	1,558,177	1,527,829	30,348	
受水費	748,739	747,475	1,264	○千歳川系施設からの給水量の増加に伴う受水費の増
配水及び給水費	125,001	115,089	9,912	○委託料及び人件費の資本的支出との組み換えによる増:前年比+11,534千円
総係費	199,652	180,401	19,251	○燃料費高騰に伴う光熱水費の増:前年比+2,870千円 ○恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略改定業務委託の増:前年比+6,160千円
企業債償還利息	18,550	19,218	▲ 668	○企業債償還利息の減
その他	466,235	465,646	589	
○資本的収支				
(歳入)	154,693	230,730	▲ 76,037	
企業債	145,200	224,000	▲ 78,800	○企業債借入額の減
出資金・補助金	0	6,730	▲ 6,730	○令和6年度対象事業の減
その他	9,493	0	9,493	○橋梁架替工事補償金の増
(歳出)	658,603	690,261	▲ 31,658	
水道施設整備費	367,675	396,694	▲ 29,019	○緊急貯水槽整備実施設計の減:前年比▲10,923千円 ○配水管整備基本計画見直し委託業務の減:前年比▲21,868千円
固定資産購入費	0	2,408	▲ 2,408	○固定資産購入の減
企業債償還金	131,038	159,703	▲ 28,665	○企業債償還金の減
その他	159,890	131,456	28,434	○メーター部品単価及び発注個数の増

※消費税込

(単位:千円)

	令和6年度	令和5年度	増減額	
当年度純利益(税抜)	66,583	95,521	▲ 28,938	

2. 下水道事業会計の概要

収益的収入は、使用料収入を令和5年度決算見込み額と同額となる、前年度比681万円減の11億1,519万円となりましたが、他の収入の増により計29億934万円を見込みました。

収益的支出では、ウォーターPPP導入可能性調査などの政策事業経費の増額により、前年度比6,001万円増の27億9,228万円と見込み、純利益については前年度比1,467万円減となる4,198万円を見込みました。

資本的収入では、事業を確実に実施するため、企業債の借入額を前年度比1億260万円増の8億50万円とし、計11億3,249万円を見込みました。

資本的支出では、分流化下水道事業経費の増加に伴い、前年度比4,051万円増の19億7,868万円と見込み、全体の予算規模は、前年度比1億52万円増の47億7,097万円となりました。

〔主な下水道事業〕

事業費計 1,182,800千円(前年度比+92,610千円)

合流式下水道の分流化 事業費 557,000千円(前年度比+105,900千円)

- 合流式下水道地区に污水管を新設することによる分流化を継続し、公共用水域である河川の水質を保全するとともに合流式下水道特有の臭気の改善を図ります。
《4条予算》 557,000千円(前年度比+105,900千円)

管路整備等 事業費 401,800千円(前年度比+75,050千円)

- 老朽化対策
 - スtockマネジメント計画に基づき、布設替えや更生による管路の老朽化対策を図ります。
《4条予算》 89,000千円(前年度比+38,550千円)
 - 自走式テレビカメラ調査や管口カメラ調査により、管路施設の健全度を把握します。
《3条予算》 77,000千円(前年度比▲17,900千円)
 - 健全度調査結果等に基づき、次期Stockマネジメント計画を策定します。
《3条予算》 16,000千円(皆増)
 - 老朽化した公共柵やマンホール蓋の交換を行います。
《4条予算》 17,200千円(前年度比+2,750千円)
- 耐震化
 - 耐震診断結果に基づき、管路施設の耐震化を図ります。
《4条予算》 47,000千円(前年度比▲25,000千円)
- 耐水化
 - 耐水化計画に基づき、洪水浸水のおそれのある管路施設(島松旭町MP)の耐水化を図ります。
《4条予算》 1,000千円(前年度比±0千円)
- 雨水・污水整備
 - 雨水管整備による浸水対策や污水管整備による生活排水処理の普及を図り、快適で持続可能な生活環境を創出します。
(主な事業: 戸磯地区雨水整備、樋門ゲート改造、内水浸水想定区域図の作成(1/2年目))
《3条予算》 29,000千円(皆増)
《4条予算》 105,600千円(前年度比▲38,600千円)
- 民間活力の積極利用
 - 管渠施設と処理場施設との一体的な包括民間委託(ウォーターPPP)の導入可能性を調査します。
《3条予算》 20,000千円(皆増)

処理場整備 事業費 224,000千円(前年度比▲86,680千円)

- 老朽化対策
 - Stockマネジメント計画等に基づく脱水機等設備の更新により、老朽化対策を図ります。
《4条予算》 166,000千円(前年度比▲96,680千円)
 - 処理場設備の劣化状況の実態を踏まえ、次期Stockマネジメント計画を策定します。
《3条予算》 20,000千円(前年度比±0千円)
- 耐震化
 - 終末処理場内の各施設に応じた重要度を踏まえ、4系・5系最初沈殿池などの耐震化を図ります。
《4条予算》 38,000千円(皆増)

□下水道事業会計の概要

*経費区分欄の(歳入)(歳出)には主な経費のみ記載

(単位:千円)

経費区分	予算額		増減額	備 考
	令和6年度	令和5年度		
予 算 規 模	4,770,967	4,670,451	100,516	
○収益的収支				
(歳入)	2,909,341	2,851,292	58,049	
下水道使用料 (個別排水処理使用料含む)	1,115,194	1,122,006	▲ 6,812	○下水道使用料(家事用)の減:前年比▲49千円 ○下水道使用料(家事用外)の減:前年比▲7,033千円 ○個別排水処理使用料(家事用)の増:前年比+270千円
一般会計繰入金	753,499	695,046	58,453	○雨水処理負担金の増:前年比+3,157千円 ○他会計負担金の増:前年比+20,549千円 ○一般会計補助金の増:前年比+34,747千円
バイオガス発電事業収益	78,000	81,929	▲ 3,929	○ガス売却収益の減
その他	962,648	952,311	10,337	○国庫補助金対象事業の増:前年比+16,200千円
(歳出)	2,792,284	2,732,273	60,011	
管渠費	203,556	134,683	68,873	○内水浸水想定区域図作成による管渠委託料の増:前年比+29,000千円 ○管渠ストマネ調査費の増:前年比+33,900千円
処理場費	560,708	581,047	▲ 20,339	○処理場耐震化診断委託料の減:前年比▲28,000千円
総係費	90,852	70,412	20,440	○ウォーターPPP導入可能性調査委託料の増
その他	1,937,168	1,946,131	▲ 8,963	○処理場関係機械及び装置の除却による減価償却費の減:前年比▲6,547千円
○資本的収支				
(歳入)	1,132,487	1,110,443	22,044	
企業債	800,500	697,900	102,600	○企業債借入額の増
国庫補助金	227,100	310,900	▲ 83,800	○国庫補助金の減
その他	104,887	101,643	3,244	○他会計出資金の増:前年比+3,494千円
(歳出)	1,978,683	1,938,178	40,505	
公共下水道整備費	1,061,363	1,024,114	37,249	○委託料の増:前年比+2,310千円 ○工事請負費の増:前年比+36,620千円
固定資産購入費	1,600	2,000	▲ 400	○用地取得費用の減
企業債償還金	891,130	887,474	3,656	○企業債償還金の増
その他	24,590	24,590	0	

※消費税込

(単位:千円)

	令和6年度	令和5年度	増減額	
当年度純利益(税抜)	41,978	56,652	▲ 14,674	

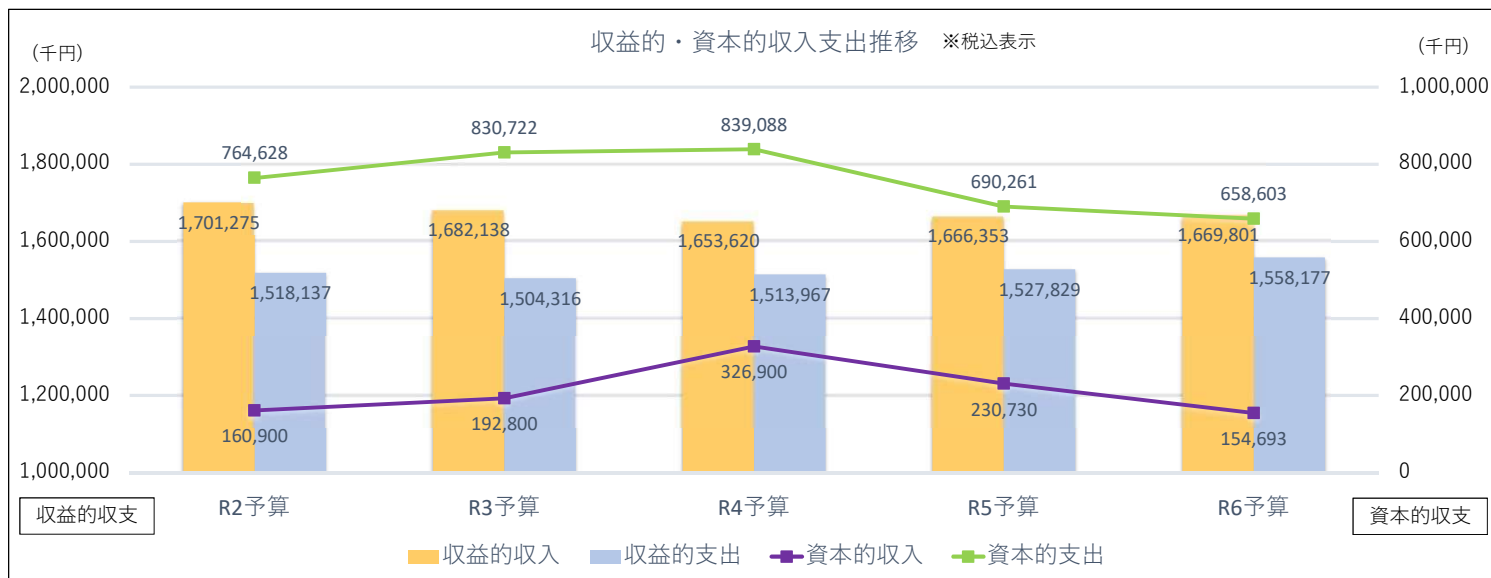
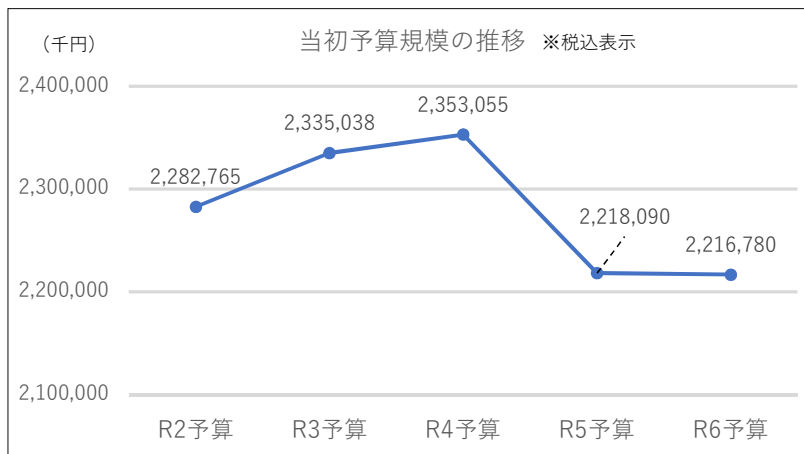
水道事業会計の推移

I. 予算規模

収益的支出と資本的支出の合計から算出される予算規模は、令和2年度から4年度にかけて耐震化事業を促進するため工事費を増額していましたが、令和5年度から令和元年度以前の規模へ戻したことにより、令和6年度予算は前年度と同水準となっています。(右図より)

また、令和6年度の収益的支出は、燃料費高騰に伴う光熱水費の上昇や恵庭市水道事業ビジョン・経営戦略改定委託業務等の経費が増加したことで前年度より微増となっています。

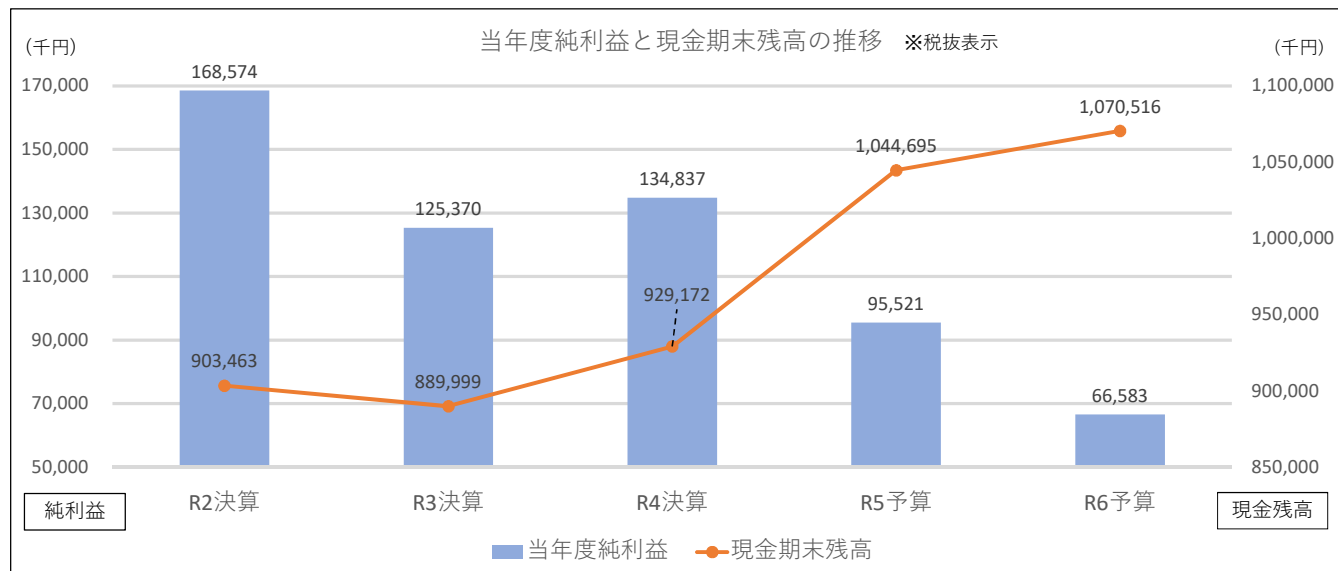
一方、前年度比で減となる資本的収入は、令和6年度に予定していた緊急貯水槽設置事業を令和5年度に前倒して実施することになったため、令和6年度の企業債の借入を減額させたことによるものです。(下図より)



II. 純利益と現金残高

令和6年度における純利益は、予算規模と同様、物価高騰に伴う光熱水費等の上昇の影響を受け支出が増加する一方、収益では、過去の実績から算定した給水装置工事の設計審査手数料が減少することから全体で減益と見込んだところです。

また、現金期末残高は、流動比率と現金残高の現状を確保するとともに現金の収支均衡を図るため、企業債を増額させることから前年度より増となる見込みです。



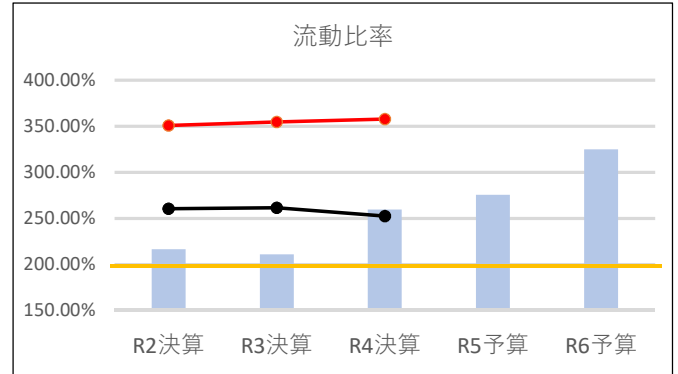
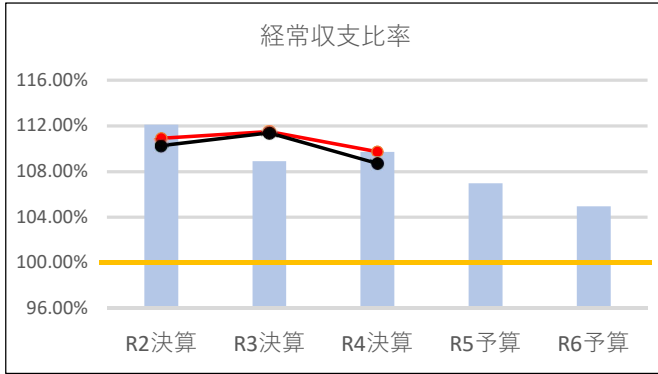
Ⅲ. 経常収支比率と流動比率

経常収支比率とは、給水収益などの収益が維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。当市は黒字を示す100%以上の数値を維持しており、令和6年度についてもこれまで同様黒字となる見込みです。

流動比率は、短期的な債務に対する支払能力を表す指標であり、当市は類似団体や全国平均を例年下回っていますが、一般的に水道事業において必要とされている200%以上の数値を上回っているため、健全に経営していると判断できます。

グラフ凡例

- 当該団体値
- 類似団体平均値
- 全国平均値



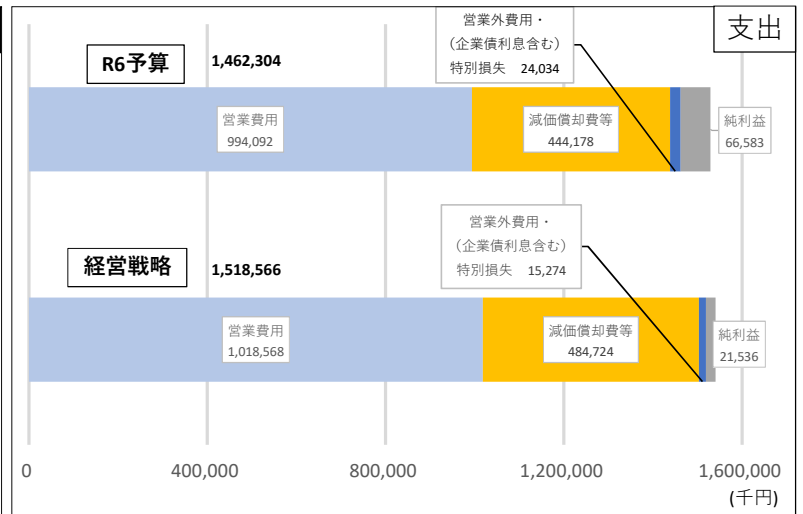
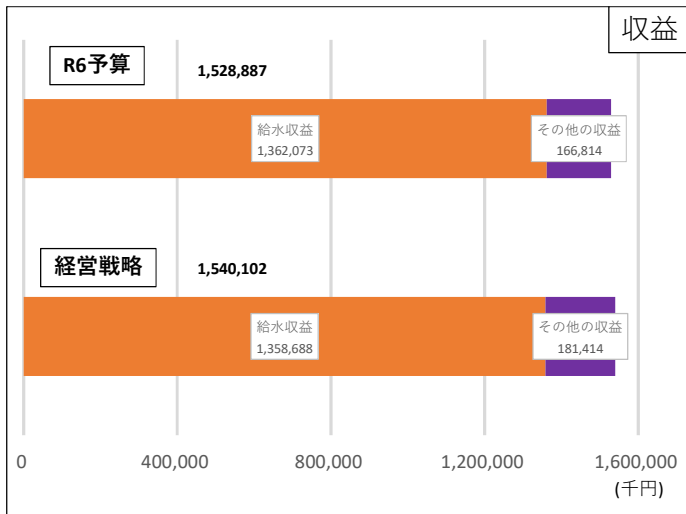
	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算	R6予算
当該団体値	112.11%	108.92%	109.73%	106.97%	104.96%
類似団体平均値	110.91%	111.49%	109.73%	-	-
全国平均値	110.27%	111.39%	108.70%	-	-

	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算	R6予算
当該団体値	216.46%	210.90%	259.59%	275.48%	325.14%
類似団体平均値	350.79%	354.57%	357.74%	-	-
全国平均値	260.31%	261.51%	252.29%	-	-

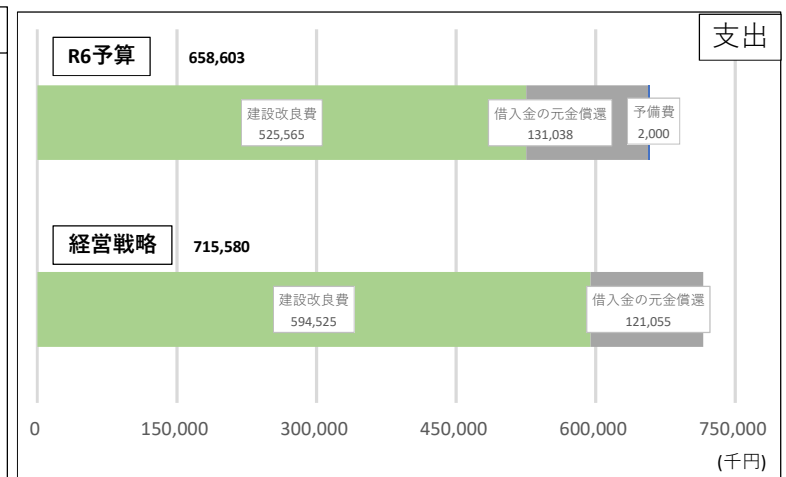
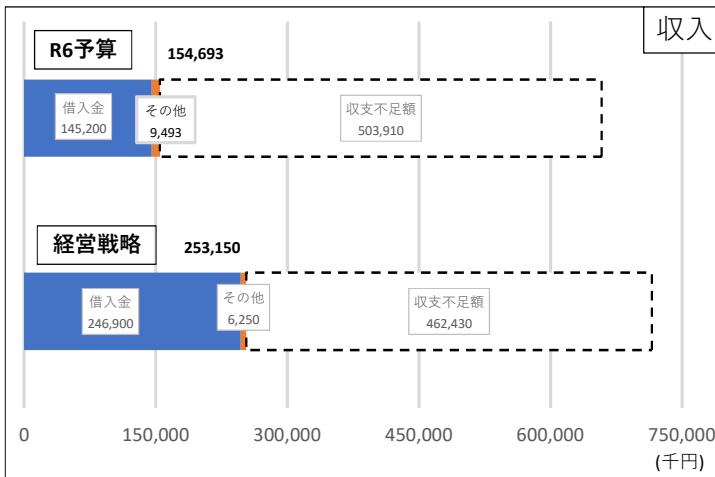
※類似団体平均値及び全国平均値はR4決算値が最新データとなっている

Ⅳ. R 6 予算と経営戦略(参考)

■ 収益的収支（3条）（消費税抜き） ※損益計算書ベース



■ 資本的収支（4条）（消費税込み）



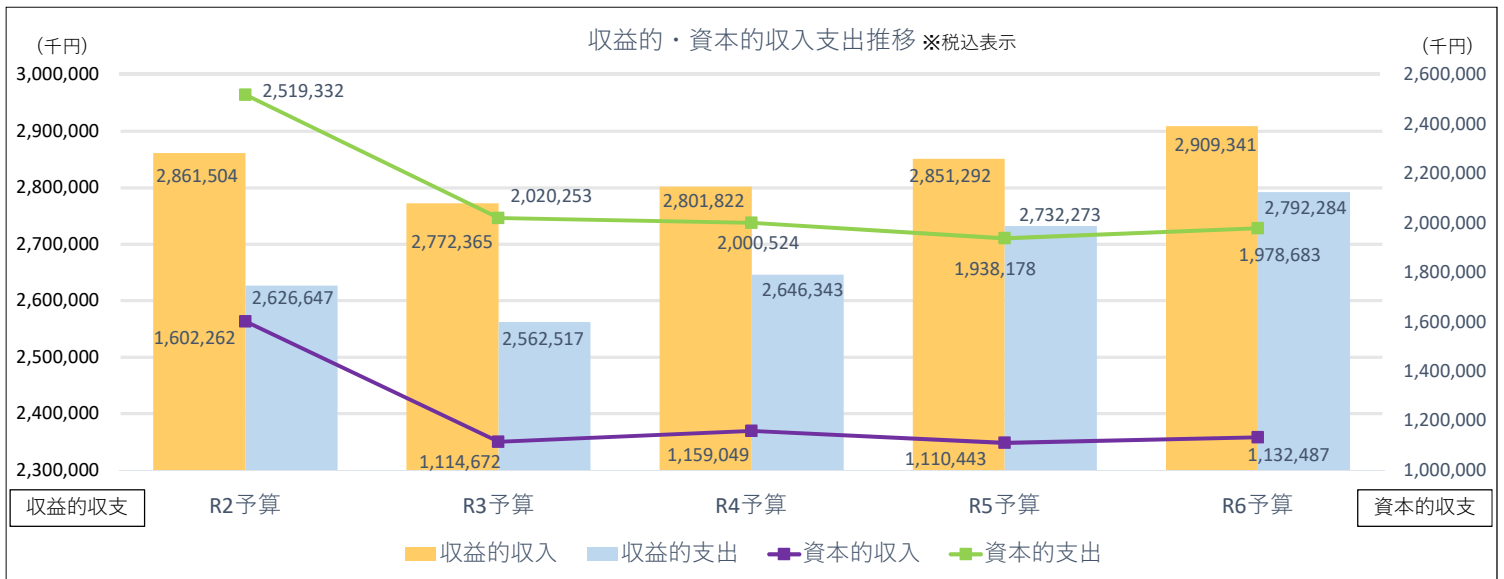
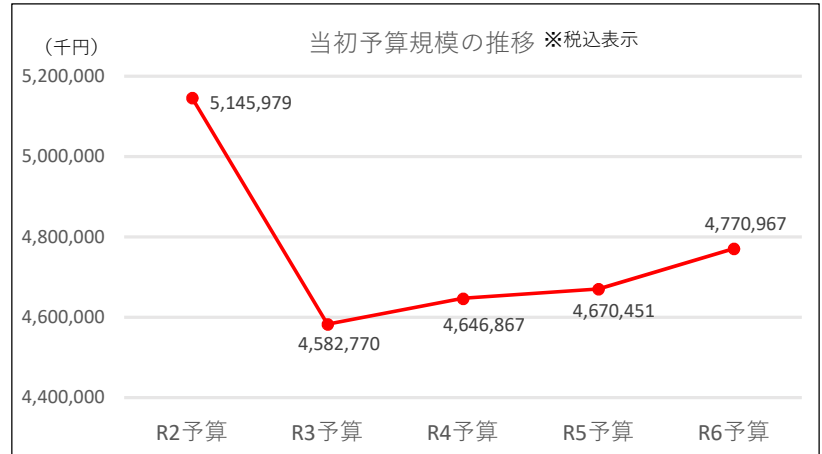
下水道事業会計の推移

I. 予算規模

収益的支出と資本的支出の合計から算出される予算規模は、令和2年度に汚泥乾燥施設の建設が完了したことに伴い縮小していましたが、令和4年度以降、物価高騰の影響を受け維持管理費や建設改良費が徐々に増加しております。（右図より）

令和6年度の収益的支出は、下水終末処理場および管渠のストックマネジメントにおける修繕や改築計画の策定、調査等の委託料が増加したことによるものです。

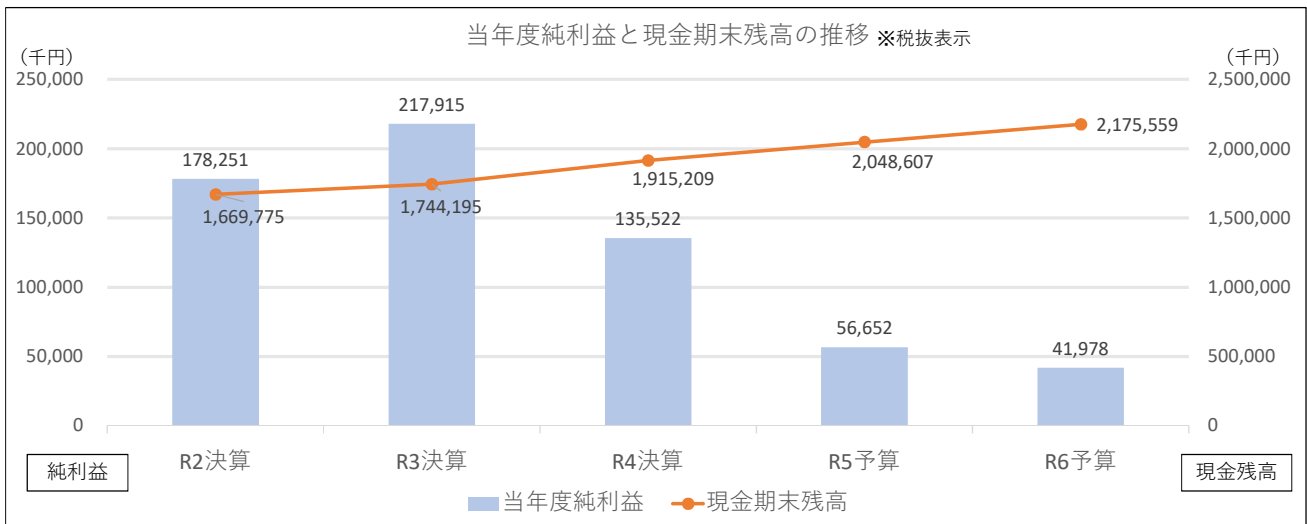
同様に増加となった収益的収入は、分流化事業やウォーターPPP等の政策事業の拡大に伴い一般会計からの補助金や負担金等の繰入金が増加するためです。（下図より）



II. 純利益と現金残高

令和6年度における純利益は、支出では予算規模と同様、下水終末処理場および管渠のストックマネジメントにおける修繕や改築計画の策定、調査等が増加したことにより減益となります。

一方、現金残高は、令和3年度に策定した経営戦略に基づき、現金の収支均衡と後年時の施設更新に対して現金を確保することを目的に企業債を増加させることから前年度より増となる見込みです。



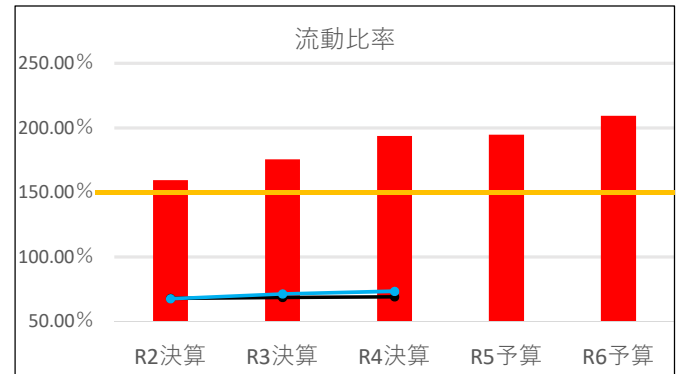
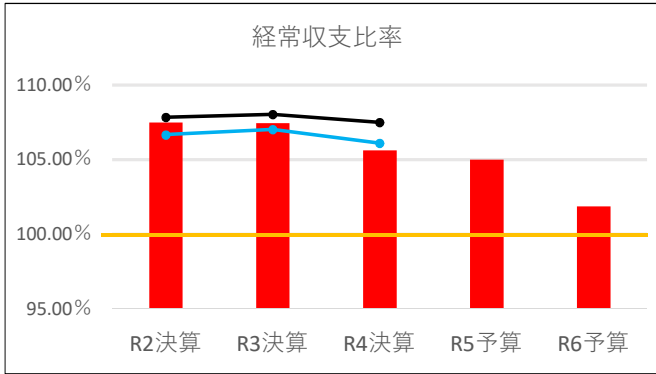
III. 経常収支比率と流動比率

経常収支比率とは、下水道使用料などの収益が維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。当市は黒字を示す100%以上の数値を維持しており、令和6年度についてもこれまで同様黒字となる見込みです。

流動比率は、短期的な債務に対する支払能力を表す指標であり、当市は類似団体や全国平均を例年上回っており、また経営戦略の目標値である150%以上の数値も上回っているため、健全に経営していると判断できます。

グラフ凡例

- 当該団体値
- 類似団体平均値
- 全国平均値



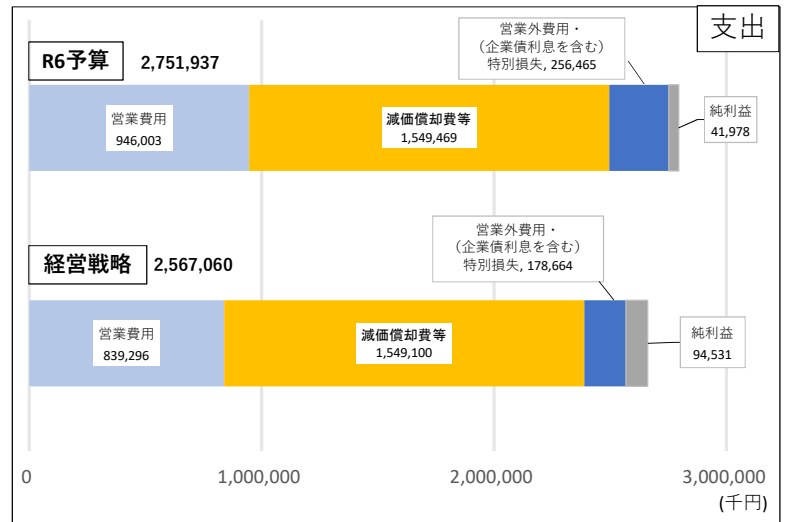
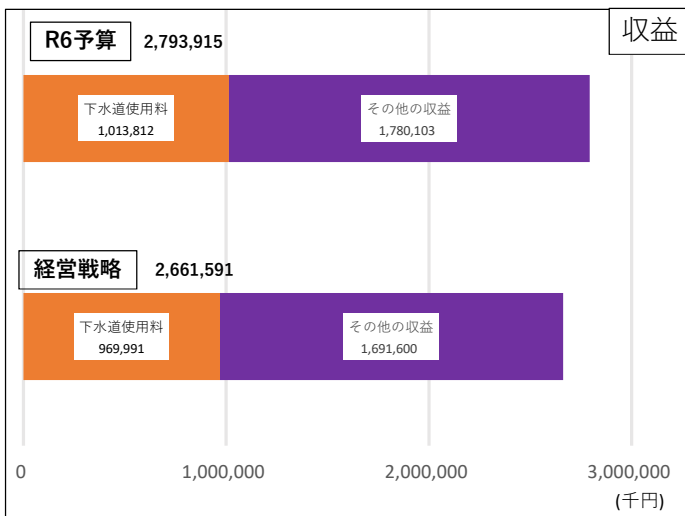
	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算	R6予算
当該団体値	107.50%	107.45%	105.63%	105.02%	101.87%
類似団体平均値	107.85%	108.04%	107.49%		
全国平均値	106.67%	107.02%	106.11%		

	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算	R6予算
当該団体値	159.57%	175.69%	193.95%	194.86%	209.49%
類似団体平均値	67.93%	68.53%	69.18%		
全国平均値	67.52%	71.39%	73.44%		

※類似団体平均値及び全国平均値はR4決算値が最新データとなっている

IV. R6 予算と経営戦略（参考）

■ 収益的収支（3条）（消費税抜き） ※損益計算書ベース



■ 資本的収支（4条）（消費税込み）

